

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3149992号
(U3149992)

(45) 発行日 平成21年4月23日 (2009. 4. 23)

(24) 登録日 平成21年4月1日 (2009. 4. 1)

(51) Int. Cl.

F 1

B 4 2 D 5/00 (2006. 01)

B 4 2 D 5/00

B 4 2 D 9/00 (2006. 01)

B 4 2 D 9/00

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2009-633 (U2009-633)
(22) 出願日 平成21年2月10日 (2009. 2. 10)(73) 実用新案権者 396016445
株式会社フェリシモ
兵庫県神戸市中央区浪花町 5 9 番地
(74) 代理人 110000556
特許業務法人 有古特許事務所
(72) 考案者 町田 聖子
群馬県富岡市下丹生 2 5 5

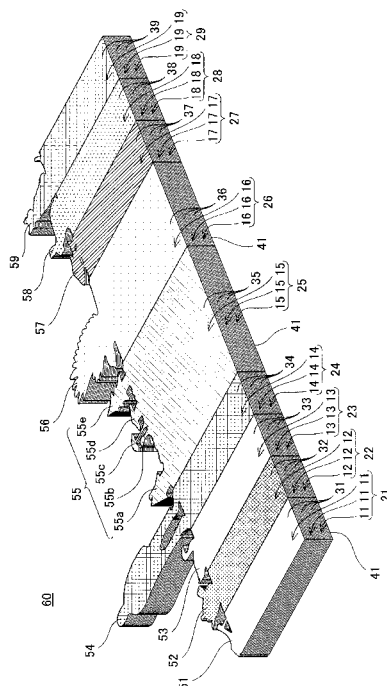
(54) 【考案の名称】 付箋及び付箋組み

(57) 【要約】

【課題】 付箋を本等に楽しみながら貼ることができ、更に、付箋の装飾部による装飾的な効果によって、この付箋が貼られた本等に華やかな美感を付与することができる付箋付箋を提供すること。

【解決手段】 全体が薄状片によって形成され、一端部片面に接着部 4 1 を有する付箋本体部 3 1 を備え、この付箋本体部 3 1 の縁部に装飾部 5 1 が形成されている付箋 1 1 において、装飾部 5 1 は、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物に含まれる「ハイヒール」の平面形状として形成されている。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

薄状片によって形成され片面に接着部を有する付箋本体部を備え、この付箋本体部の縁部に装飾部が薄状片によって形成されている付箋において、

前記装飾部は、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を含む装飾体の 1 又は 2 以上の平面形状として形成されていることを特徴とする付箋。

【請求項 2】

前記付箋本体部の一端部に前記接着部が設けられ、

前記付箋本体部の他端部に前記装飾部が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の付箋。

10

【請求項 3】

請求項 1 乃至 2 のいずれかに記載の付箋を複数備え、前記複数の付箋が備える複数の前記装飾部の形状が相違することを特徴とする付箋組み。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、薄状片によって形成され、付箋本体部の縁部に装飾部が形成されている付箋及び付箋組みに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来より、本等の所望のページを識別するために、そのページに付すことができる付箋がある。しかし、複数の各ページに付された付箋を区別できるようにするためには、例えば各ページに付された付箋の端部であって、ページの周縁部から突出した部分に文字を書き込んだり、マーカーで色を付したりする必要があり、煩雑である。

20

【0003】

そこで、図 4 に示すように、予め複数の各色に着色された付箋 1 が提案されている。この付箋 1 によると、所望の各ページに色違いの付箋 1 を付すことによって、各ページに付された付箋 1 を見分けることができ、所望のページを開くことができる。また、これ以外にも、特許文献 1 に開示されているような付箋もある。

【先行技術文献】

30

【特許文献】**【0004】**

【特許文献 1】特開 2001 - 180171 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0005】**

しかし、図 4 に示すような、形状が同一であって、異なる色に着色された付箋 1 では、その付箋を見分けるための色として、例えば、赤色、橙色、黄色、緑色、青色等の特定の異なる系統に属する色に限られてしまい、従って、見分けることができる付箋 1 を作ろうとしても、その種類の数が制限されている。

40

【0006】

また、単に色分けされた付箋 1 では、本等に複数枚の付箋 1 を付したときに、見栄えよく、華やかな感じを持たせるためのバリエーションが狭く、付箋 1 を使用するときの楽しみが少ないという問題がある。

【0007】

本考案は、上記のような課題を解決するためになされたものであり、付箋を本等に楽しみながら貼ることができ、更に、付箋の装飾部による装飾的な効果によって、付箋が貼られた本等に華やかな美感を付与することができる付箋及び付箋組みを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

50

【 0 0 0 8 】

本考案に係る付箋は、薄状片によって形成され片面に接着部を有する付箋本体部を備え、この付箋本体部の縁部に装飾部が薄状片によって形成されている付箋において、前記装飾部は、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を含む装飾体の 1 又は 2 以上の平面形状として形成されていることを特徴とするものである。

【 0 0 0 9 】

この考案に係る付箋によると、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を含む装飾体の 1 又は 2 以上の平面形状を使用して装飾部を形成したので、使用者の性別、年齢層、趣味等に応じて、使用者の要求を満たすことができる形状や色彩が異なる様々な付箋を多数提供することができる。そして、このような履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を含む装飾部は、記憶し易いので、装飾部の形状が相違する付箋を例えば本に付したときに、それぞれの付箋を容易に見分けることができ、所望のページを開くことができる。

10

【 0 0 1 0 】

そして、この考案に係る付箋において、前記付箋本体部の一端部に前記接着部が設けられ、前記付箋本体部の他端部に前記装飾部が設けられる構成とすることが好ましい。このようにすると、この付箋を例えば本のページに貼り付けるときに、装飾部がページの周縁から突出して、この装飾部が見易い位置に配置されるようにこの付箋を付すことができる。

【 0 0 1 1 】

本考案に係る付箋組みは、前記付箋を複数備え、前記複数の付箋が備える複数の前記装飾部の形状が相違することを特徴とするものである。

20

【 0 0 1 2 】

この考案に係る付箋組みによると、複数のそれぞれの付箋に形成されている装飾部の形状又は色彩が相違しているので、例えば 1 冊の本に複数の付箋を付したときに、各付箋は、それぞれの付箋が付されているページの内容との関係で目印としての機能を果たすことができる。よって、所望の内容のページを開こうとするときは、そのページと対応する装飾部が形成された付箋を目印としてそのページを開くことができる。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 3 】

本考案に係る付箋によると、付箋本体部の縁部に形成された装飾部が、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を含む装飾体の 1 又は 2 以上の平面形状として形成された構成であり、このような装飾部は、親しみのある身近に存在するものの形状であるので、付箋を本等に楽しみながら貼ることができる。更に、付箋の装飾部による装飾的な効果によって、この付箋が貼られた本等に華やかな美感を付与することができるし、そのような美観のバリエーションを広げることができる。

30

【 0 0 1 4 】

そして、この考案に係る付箋組みによると、この付箋組を構成する複数の付箋のそれぞれの装飾部を、例えば或る物語に登場する人物、動物、物等の形状に形成することによって、この複数の装飾部が全体として纏まりのある美観を奏するようにすることができる。そして、使用者は、その物語を連想することによって、楽しみながらこの付箋組みを使用することができる。

40

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 5 】

【 図 1 】 この考案の一実施形態に係る付箋及び付箋組みを示す斜視図である。

【 図 2 】 同実施形態に係る付箋を示す斜視図である。

【 図 3 】 同実施形態に係る付箋の使用方法を説明するための斜視図である。

【 図 4 】 従来 of 付箋の一例を示す斜視図である。

【 考案を実施するための形態 】

【 0 0 1 6 】

以下、本願考案に係る付箋及び付箋組みの一実施形態を、図 1 ~ 図 3 を参照して説明す

50

る。図 1 は、9 種類の付箋積層体 2 1、2 2、2 3、・・・2 9 を備える付箋組み 6 0 の斜視図であり、それぞれの付箋積層体 2 1、2 2、2 3、・・・2 9 は、同一形状の多数の付箋 (1 1、・・・)、(1 2、・・・)、(1 3、・・・)、・・・(1 9、・・・) が積層されたものである。そして、図 1 に示す 9 種類の各付箋積層体 2 1 ~ 2 9 は、それぞれ分離しているものであるが、図には示さないが、これら付箋積層体 2 1 ~ 2 9 を、1 枚の台紙に貼り付けた構成としてもよい。

【0017】

図 2 に示す左端の付箋 1 1 は、例えば紙、フィルム等で形成された薄状片によって形成され、付箋本体部 3 1 と装飾部 5 1 とを備えている。

【0018】

付箋本体部 3 1 は、縦長の矩形の薄状片で形成されている。そして、この付箋本体部 3 1 の長手方向の一端縁部に装飾部 5 1 が形成されている。この装飾部 (装飾体) 5 1 は、例えば「ハイヒール」(履物)の側面形状に形成されており、このハイヒール (履物) の側面形状が、装飾部 5 1 の平面形状となっている。

【0019】

そして、この付箋本体部 3 1 の長手方向の他端部の裏面には、接着部 4 1 が設けられている。この接着部 4 1 は、例えば紙やフィルムに対して繰り返し貼ったり剥がしたりすることが可能な接着剤を塗布したものである。

【0020】

次に、図 1 に示す左端から 2 番目、3 番目、・・・9 番目のそれぞれの付箋 1 2、1 3、・・・1 9 を説明する。これら 2 番目、3 番目、・・・9 番目のそれぞれの付箋 1 2、1 3、・・・1 9 と、左端の付箋 1 1 とが相違するところは、装飾部の形状が相違するところである。

【0021】

つまり、図 1 に示すように、左端から 2 番目、3 番目、・・・9 番目のそれぞれの装飾部 (装飾体) 5 2、5 3、・・・5 9 は、例えば「きゅうす」(食器)、「アヒル」、「人」、「家、キノコ、キノコ、キノコ、木」、「羽ばたいている鳥」、「魚」、「ウサギ」、「ネコ」のそれぞれの側面形状に形成されており、これらの「きゅうす」(食器)、「アヒル」、・・・「ネコ」の側面形状が、装飾部 5 2、5 3、・・・5 9 の平面形状となっている。

【0022】

ただし、左端から 5 番目の装飾部 5 5 は、「家、キノコ、キノコ、キノコ、木」を表すそれぞれの装飾体 5 5 a、5 5 b、5 5 c、5 5 d、5 5 e によって構成されている。

【0023】

そして、装飾部 5 1 ~ 5 9 は、「きゅうす」(食器)、「アヒル」、・・・「ネコ」の形状としたが、これら以外の例えば履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物の 1 又は 2 以上の平面形状としてもよい。

【0024】

また、図 1 に示す左端から 1 番目 ~ 4 番目、7 番目 ~ 9 番目のそれぞれの付箋本体部 3 1 ~ 3 4、3 7 ~ 3 9 の各横幅は、例えば約 10 mm である。そして、左端から 5 番目、6 番目のそれぞれの付箋本体部 3 5、3 6 の横幅は、例えば約 30 mm、約 20 mm である。

【0025】

更に、図 1 に示す左端から 1 番目 ~ 9 番目のそれぞれの付箋 1 1 ~ 1 9 の各色は、例えば「赤色」、「橙色」、「黄色」、「黄緑色」、「深緑色」、「紫色」、「水色」、「白色」、「黒色」である。勿論、これら以外の色に着色したものとしてもよいし、各付箋 1 1 ~ 1 9 を同色のものとしてもよい。そして、付箋 1 2 ~ 1 9 は、上記以外については左端の付箋 1 1 と同等であるので、それらの説明を省略する。

【0026】

次に、上記のように構成された付箋組み 6 0 の使用例を、図 3 を参照して説明する。ま

10

20

30

40

50

ず、付箋組み 60 から所望の種類の付箋 11、12、・・・、又は 19 を選択し、その付箋を付箋積層体 21、22、・・・、又は 29 から一枚ずつ剥離し、この付箋の装飾部 51、52、・・・、又は 59 が本 70 の所望の各ページの周縁部から突出するように、各ページに貼着する。このように付箋を付すことによって、本 70 が閉じられた状態でも装飾部 51、55 を視認することができる。図 3 に示す本 70 には、装飾部 51、55 の形状が異なる付箋 11、15、及び装飾部が形成されていない従来の付箋 72 が付されている。

【0027】

次に、図 1～図 3 に示す付箋 11～19 及び付箋組み 60 の作用を説明する。これらの付箋 11～19 によると、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を含む装飾体の 1 又は 2 以上の平面形状を使用して装飾部 51～59 を形成したので、使用者の性別、年齢層、趣味等に応じて、使用者の要求を満たすことができる形状や色彩が異なる様々な付箋を多数提供することができる。

10

【0028】

そして、このような履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を表す装飾部 51～59 は、記憶し易いので、装飾部 51～59 の形状が相違する付箋 11～19 を例えば本 70 に付したときに、それぞれの付箋 11～19 を容易に見分けることができ、所望のページを開くことができる。

【0029】

また、これらの付箋 11～19 によると、付箋本体部 31～39 の縁部に形成された装飾部 51～59 が、履物、食器、動物、魚、植物、人、又は物を表す構成であり、このような装飾部 51～59 は、親しみのある身近に存在するものの形状であるので、付箋 11～19 を本 70 等を楽しみながら貼ることができる。更に、付箋 11～19 の装飾部 51～59 による装飾的な効果によって、この付箋 11～19 が貼られた本 70 等に華やかな美感を付与することができるし、そのような美観のバリエーションを広げることができる。

20

【0030】

更に、図 1 に示す付箋組み 60 によると、この付箋組 60 を構成する複数の付箋 11～19 のそれぞれの装飾部 51～59 を、例えば或る物語に登場する人物、動物、物等の形状に形成することによって、この複数の装飾部 51～59 が全体として纏まりのある美観を奏するようにすることができる。そして、使用者は、その物語を連想することによって、楽しみながらこの付箋組み 60 を使用することができる。

30

【0031】

例えば、付箋組み 60 を構成するそれぞれの付箋積層体 21～29 のそれぞれの装飾部 51～59 の形状を、グリム童話のブレーメンの音楽隊に登場する口バ、イヌ、ネコ及びニワトリ等とすることができる。これによって、それぞれの付箋積層体の装飾部の形状を互いに関連があるものとすることができ、全体として調和のとれた美感を奏することができる。

【0032】

そして、図 1～図 3 に示すように、付箋 11～19 は、付箋本体部 31～39 の一端部に接着部 41 が設けられ、付箋本体部 31～39 の他端部に装飾部 51～59 を設けた構成としたので、この付箋 11～19 を例えば本のページに貼り付けるときに、装飾部がページの周縁から突出して、この装飾部 51～59 が見易い位置に配置されるようにこの付箋 11～19 を付すことができる。

40

【0033】

また、付箋 11～19 の付箋本体部 31～39 及び装飾部 51～59 を、紙又はフィルムで形成してあるので、付箋 11～19 自体が嵩張らないし、屈曲性があるので貼着し易いし、低コストで製造することができる。

【0034】

そして、図 1 に示す付箋組み 60 によると、複数のそれぞれの付箋 11～19 に形成さ

50

れている装飾部 5 1 ~ 5 9 の形状及び色彩が相違しているので、例えば 1 冊の本 7 0 に複数の付箋 1 1 ~ 1 9 を付したときに、各付箋 1 1 ~ 1 9 は、それぞれの付箋 1 1 ~ 1 9 が付されているページの内容との関係で目印としての機能を果たすことができる。よって、所望の内容のページを開こうとするときは、そのページと対応する装飾部 5 1 ~ 5 9 が形成された付箋 1 1 ~ 1 9 を目印としてそのページを開くことができる。

【 0 0 3 5 】

そして、図 1 に示す付箋 1 1 ~ 1 9 の使用方法として、付箋 1 1 ~ 1 9 を本 7 0 等のページに貼り付けるときに、そのページの内容と対応する形状の装飾部 5 1 ~ 5 9 を有する付箋 1 1 ~ 1 9 を使用することができる。例えば、付箋を付すページの内容が、ネコの飼い方について記載されたものであるならば、猫の形をした装飾部 5 9 を有する付箋 1 9 を使用することができる。これによって、或る内容のページを開くときは、そのページの内容と対応する装飾部が形成されている付箋を目印にそのページを開くことができる。

10

【産業上の利用可能性】

【 0 0 3 6 】

以上のように、本考案に係る付箋及び付箋組みは、付箋を本等に楽しみながら貼ることができ、更に、付箋の装飾部による装飾的な効果によって、この付箋が貼られた本等に華やかな美感を付与することができる優れた効果を有し、このような付箋及び付箋組み等に適用するのに適している。

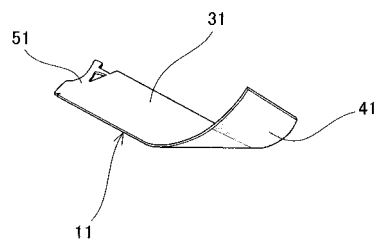
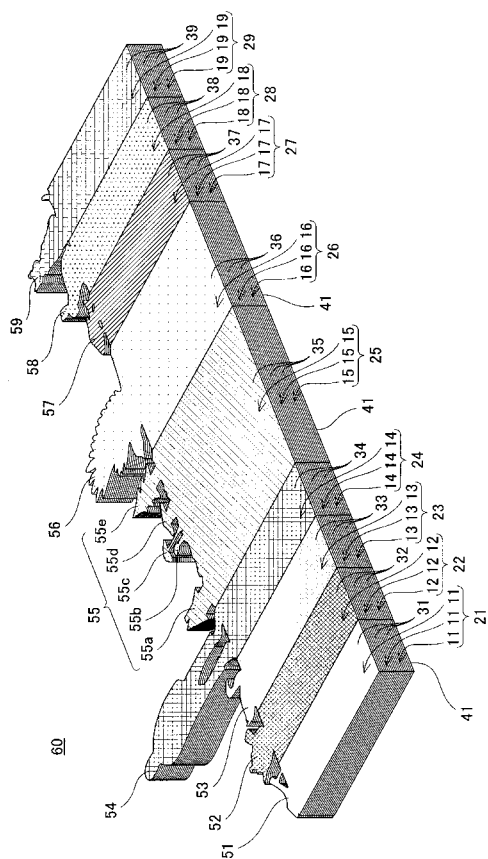
【符号の説明】

【 0 0 3 7 】

20

- 1 1 ~ 1 9 付箋
- 2 1 ~ 2 9 付箋積層体
- 3 1 ~ 3 9 付箋本体部
- 4 1 接着部
- 5 1 ~ 5 9 装飾部
- 5 1 a、5 1 b、5 1 c、5 1 d、5 1 e 装飾体
- 6 0 付箋組み
- 7 0 本

【圖 2】



【 図 4 】

